

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和6年6月)

### ～インバウンド効果や気温の上昇により、現状判断は4か月ぶり上昇～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断が47.6と前月比で4か月ぶりの上昇(+1.9ポイント)となった。ただ、好不調の判断の目安となる50.0は3か月連続で下回っている。一方、先行き判断も47.6と4か月ぶりの上昇(+2.5ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンド市場は依然として好調な推移を続けており、百貨店を中心とした関連業界では、需要の増加が続いている。1ドル160円前後で推移する大幅な円安傾向も、インバウンド消費に対する大きな追い風となった。ただ、コメントの中には、インバウンドの伸びが一服してきたというものが散見されることから、やや注意が必要とみられる。
- 一方、今月は天候要因によるプラスとマイナスの両方の影響が出ている。まず、月中旬から後半にかけて例年を上回る気温となったことで、夏物商材の販売増加につながった一方、梅雨に伴う集中的な雨によって、幅広い業種で客足への悪影響が出る形となった。
- 景気の先行きについては、引き続きインバウンドの増加に対する期待は大きく、百貨店やホテルなどを中心に、売上の増加を期待する声が多い。特に、中国人客の増加には期待の声が大きい。ただし、現状判断と同様、インバウンド効果の息切れを指摘する声もあり、やや注意が必要とみられる。
- その一方、今夏は猛暑の予想であり、夏物商材の販売増を期待する声が多いほか、減税や賃上げ効果についても、一定の消費の押し上げ効果に対する期待の声が少なくない。
- 他方、物価やコストの上昇に対する警戒感は、依然として非常に強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。特に、今後も円安傾向の継続が見込まれる中、輸入コストの上昇による悪影響にも警戒感が強まっている。

#### 「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(サービス担当)	・今月も大きな傾向に変化はなく、インバウンドや外商売上は好調が続いている。特に海外ブランドや化粧品が好調で、前年の実績を大幅に上回っている。
		百貨店(売場統括)	・インバウンド売上が前年比で約5倍となっている。ラグジュアリーブランドの購入が70%増えたほか、高級時計の購入も30%増え、売上全体の底上げにつながっている。
	やや良くなっている	百貨店(管理担当)	・インバウンド需要が好調で、前年比で倍増となっている。
		百貨店(外商担当)	・インバウンド売上が過去最高を記録している。幾つかの海外高級ブランドの店には、連日インバウンドが入場待ちの行列をつくっている。国内客の売上も、外商客の高額品需要は非常に旺盛である。
		百貨店(売場マネージャー)	・インバウンド売上は好調が続いているほか、国内客の消費も3か月前と比べてやや上向いている。一方、お中元のギフト商戦は悪化傾向にあり、来客数だけでなく、客単価も低下傾向となっている。
		コンビニ(店員)	・最近は特に、インバウンドの個人客に加えて、家族連れの子供客がかなり増えており、朝から夜まで多くの客が来店している。
		一般レストラン(経営者)	・飲食店の経営者に話を聞くと、一見客やインバウンドが増えているほか、グループでの宴会利用や客単価も改善している。前年比だけでなく、新型コロナウイルス感染症発生前と比べても増加傾向にある。一方、原材料費や光熱費の上昇に加え、解消されない人手不足に伴う広告や設備投資の増加で費用も増えているため、利益は増えにくい。

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	タクシー運転手	・多少は企業関係の動きが活発になっている。また、インバウンド効果のほか、大阪・関西万博に向けた慌ただしい動きが、タクシーの需要を押し上げている。
		一般小売店〔化粧品〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行から1年が経過し、都心店舗ではインバウンドの増加による影響で、化粧品の販売は前年比130%で推移した。国内客も前年はまだ全ての人がマスクを外せない状況であったため、今年は売上が5%から6%増加している。ただし、郊外店舗ではインバウンドの恩恵が少なく、特に観光資源に乏しい街の店舗では、僅かな伸びしかみられない。
	変 わ ら な い	百貨店(企画担当)	・インバウンド需要が好調な一方、外商売上はやや厳しいという構図は、ここしばらく変わっていない。インバウンド売上も、一般品が消耗品を大きく上回る状況に変化はない。
		百貨店(企画担当)	・国内客の売上は堅調であるが、上昇トレンドというわけでもなく、緩やかな推移となっている。一方、インバウンド売上は好調であるが、やや一服感がある。
		百貨店(宣伝担当)	・訪日外国人を中心に、来客数が前年比で高水準の推移となっている。円安の影響もあり、百貨店での買物が旅行プランの1つに定着している。
		百貨店(マネージャー)	・全体的な傾向は変わらず、円安の影響もあり、インバウンド消費が特選ブランドを中心に前年比で178%と大きく伸びている。国内客も、富裕層は若年層から高齢者層まで堅調であり、消費は約10%増えている。一方、小型店を含む中間層の動きは、暑さの影響か夏物衣料の売行きは堅調であるが、日常の食品の買物には慎重な動きが目立つ。全体的には前年比で1.3%増と微増となっている。
		百貨店(マネージャー)	・来客数は前年比で30%の増加となっているが、売上の増加は特選部門がけん引し、インバウンドを除く国内売上の伸び率は、1けた以下という低水準にある。
		百貨店(特選品担当)	・インバウンド売上は前年比で好調が続いているが、3か月前からはほぼ横ばいであり、中国人客の来店が相変わらず伸びない。また、インバウンドの主な購買商品が、化粧品からラグジュアリー商品に変化している。それに伴い、高級ブランドの品ぞろえの違いが百貨店間の優劣につながるなか、当社は競合先よりも弱さがみられる。
		百貨店(売場マネージャー)	・店頭の上は、食料品関係では前年を少し上回っているが、ファッション関連が相変わらず低迷している。特に、婦人服のシニア、ミセス向けや、紳士服、子供服関係が前年比で4%から5%の減少となっている。6月のプレセールや、7月のクリアランスセールも同様の傾向になると予想される。その一方、インバウンド売上は好調に推移している。
		その他専門店〔宝飾品〕 (販売担当)	・人の動きは多いが、来客数や売上の増加につながらない。街を歩く人の買物は生活必需品が中心であるほか、インバウンド客の手にはハイブランドかドラッグストアの袋が下がっている。
		都市型ホテル(客室担当)	・インバウンドの利用が好調で単価が上昇している一方、国内客への悪影響が拡大するという2極化の動きに、ここ数か月は変化がみられない。今年度の質上げの効果もまだ実感はなく、直近で単価を下げざるを得ない状況が続いている。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕 (企画担当)	・国内客やインバウンドの団体客の来場は堅調であるものの、バス料金の高騰やバス運転士の不足により、バスがチャーターできない団体客が出始めている。
	や や 悪 く な っ て い る	一般小売店〔鮮魚〕 (営業担当)	・インバウンドの集客が悪化し、卸売の飲食関係の売上が10%減少している。
		百貨店(商品担当)	・インバウンドの動きが鈍くなっていると感じるほか、国内客の購買意欲も少し減退している。
コンビニ(経営者)		・欧米からのインバウンドが増えており、欧米の客からは、本当にここは日本かというジョークが飛び出すほど、国内客の来店が減っている。ただし、インバウンドの購入額は少ない。	
企 業 関 連	な や や 良 く な っ て い る	一般レストラン(店主)	・国内客や訪日客といった客層の多様化により、地方の個人店舗では対応が追いつかず、様々な面でターゲットも絞りにくい。
		経営コンサルタント	・取引のある商店街は全国にあり、特に観光地にある商店街には、大勢のインバウンドが押し寄せている。

### 「賃上げ」関連のコメント(先行き判断)

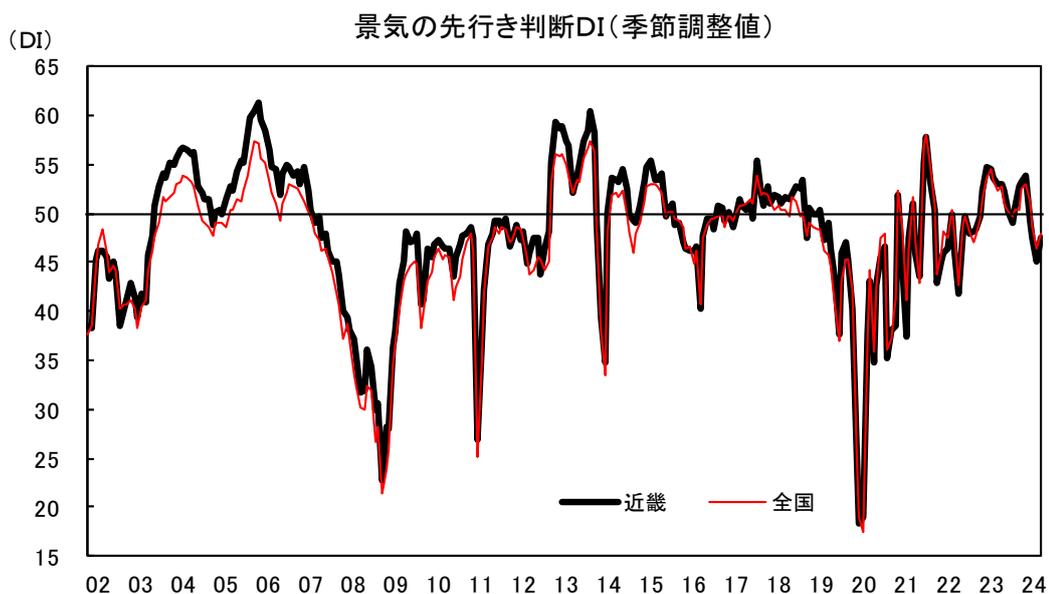
家計関連	く や な る 良 い	百貨店(企画担当)	・各社による賃上げや、各種政策の効果に期待したい。
		乗用車販売店(支店長)	・株価の動きや賃金の増加によって消費の回復が進み、景気は良くなるのが予想される。
	変 わ ら な い	スーパー(店長)	・定額減税や給与のベースアップはあるが、物価上昇の影響が大きいため、今後も客の買物動向は上向かないと予想される。
		遊園地(経営者)	・賃上げや定額減税の効果が出ることを期待している。

家計動向関連	変わらない	その他レジャー施設 〔複合商業施設〕（職員）	・賃上げによる一定の効果には期待できるが、急激な円安に歯止めがかからなければ、輸入コストの上昇による生活の圧迫が続く。一方、秋の米国大統領選挙の結果次第で、日本経済にも大きな影響が出てくる。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・定額減税は一時的な所得の増加であり、浮かれている場合ではない。物価の上昇は相変わらずであり、家計の財布のひもが緩むわけではない。ただし、今春の賃金のベースアップがまずまずの額であったため、来月の夏季ボーナスの増加に期待したい。
	くや な 悪	スーパー（開発担当）	・円安によって物価が上昇する一方、賃金は増えない。これでは景気は良くならない。
企業動向関連	くや な 良	住宅販売会社（総務担当）	・賃金の上昇よりも、食品や電気、ガソリンなどの価格の上昇が目立っており、買い控えの傾向が高まる。
		輸送業（経営者）	・運賃の値上げが認められることになり、新規採用での給与を増やすことができる。これで採用の応募者が増えるため、これまで受けられなかった仕事も受注できるようになる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・米国との金利差が縮まらない限り、円安基調は変わらない。大企業だけでなく、中小企業にも賃上げムードが波及しているものの、物価の上昇で実質賃金は減少しており、まだ十分とはいえない。定額減税の効果も一時的であるため、景気の実感は変わらない。
		輸送業（営業担当）	・ドライバーの労働時間や賃金が減るなど、労働条件には悪化がみられるが、我慢できる範囲である。
雇 わ ら な い	人材派遣会社（営業担当）	・関西全体の時給の底上げには、企業業績の改善が求められる。社員全体の賃上げを行わない限り、新規求人の時給が改定されることはない。	
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・賃上げや定額減税などが、現状の物価上昇に対して効果的であるとは考えにくい。円安やインバウンド関連で潤っている企業も多いため、全体として大きな変化はない。	

### 「猛暑」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良 く な る	百貨店（サービス担当）	・今年は猛暑の予想であるが、夏休み期間のイベント催事の強化やインバウンド効果によって好調な推移が予想され、来客数も増加が見込まれる。
		タクシー運転手	・大阪・関西万博に向けた動きやインバウンドの増加、今年の酷暑により、需要は高まる見通しである。
	やや 良 く な	コンビニ（店員）	・暑くなれば、飲料などを求めて来店する客が少し増える。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の受注が増えているほか、これから暑くなってクーラーの修理が増えるため、販売量の増加につながる。
		タクシー運転手	・梅雨の影響もあって蒸し暑くなるため、乗車距離よりも、乗車する回数が増えてくる。
	変 わ ら な い	百貨店（販促担当）	・物価の上昇は今後も続くと思われる。今年は猛暑の予想であるほか、長い夏となること予想されるなか、生活必需品には厳しい影響が出そうである。一方、インバウンドの効果は大きくないものの、堅調な推移が予想される。有名ブランドの販売も、株高効果もあって良好な動きが予想される。
		スーパー（店員）	・暑さの影響で収量の減る野菜は、また価格が上がる一方、夏野菜の価格は下がる見込みであるなど、まだまだ厳しい状況が続く。果物の価格も下がらないと予想されるため、今後は余り期待できない。
		スーパー（経理担当）	・梅雨明け後は猛暑が予測され、暑さによる外出機会の減少や、節約による買い控えが懸念される。一部では生活支援を名目に値下げをする企業も出てきており、価格競争が激化する恐れもあるなど、企業業績への影響が懸念される。
		コンビニ（店員）	・今年は暑さが長く続くため、今後も冷たい商品の売上が増えると思われる。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊部門と宴会部門の集客は続いているが、今夏も厳しい暑さが予想されていることもあり、レストランの集客は苦戦が強いられる。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・インバウンドは今後も堅調に推移する一方、観光バスの不足や夏の猛暑で国内の団体客の動きは鈍化するため、全体的には変わらないと予想される。
	やや 悪 く な る	一般小売店〔花〕（経営者）	・光熱費やガソリン代などの経費の増加で利益が減少するほか、今年の猛暑により、仕入価格にも影響が出そうである。
		百貨店（特選品担当）	・夏休みの海外旅行は円安で低調となるなか、国内旅行もオーバーツーリズムによる値上がりや混雑で、低調な動きとなりそうである。それに伴い、衣料品を中心とした外出関連需要が減少するほか、猛暑関連やパリオリンピック関連の需要も食品が中心であり、規模も小さなものとなりそうである。前年の8月から10月は在阪球団の応援フィーバーがみられたが、今期は不調であるため、盛り上がりには欠けそうである。
		家電量販店（人事担当）	・今年も酷暑となる見込みであり、屋外での活動よりも屋内での活動が多くなる。それに伴い、実店舗への来客数の減少が見込まれる。
		一般レストラン（経営者）	・今年の夏は猛暑の予想であり、特に高齢者は気象予報をよくみているため、外食の機会が減少する。
雇 わ ら な い	化学工業（企画担当）	・食品原材料では販売価格への転嫁が進み、適正な利益が確保できている。酷暑による食品の需要減少が予想されるものの、インバウンド需要の増加によって相殺される。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年						23年						24年												
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
現状判断	近畿	50.7	38.8	43.3	50.8	51.3	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	50.1	53.5	50.5	48.1	45.7	47.6
	(全国)	51.8	43.0	45.5	49.5	51.8	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2	51.3	49.8	47.4	45.7	47.0
先行き判断	近畿	46.3	41.8	48.0	49.6	47.9	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1	53.8	49.2	47.5	45.1	47.6
	(全国)	48.1	42.6	48.8	49.6	48.2	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5	53.0	51.2	48.5	46.3	47.9

※季節調整値